

18
未満



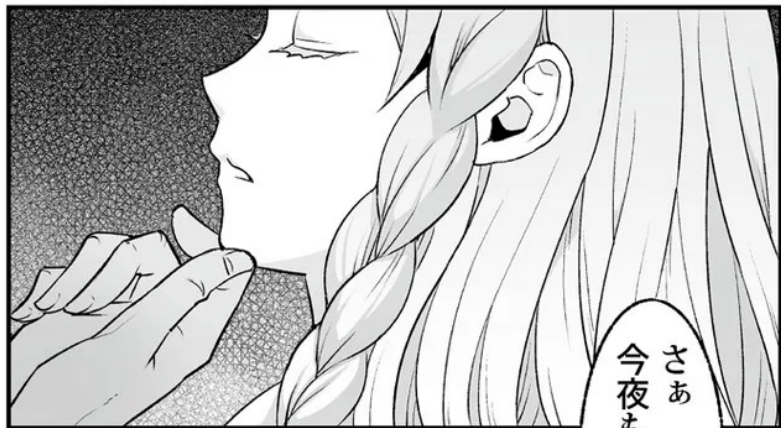
月庭の聖女
〜淫蜜の宴〜

第六夜 人形の庭

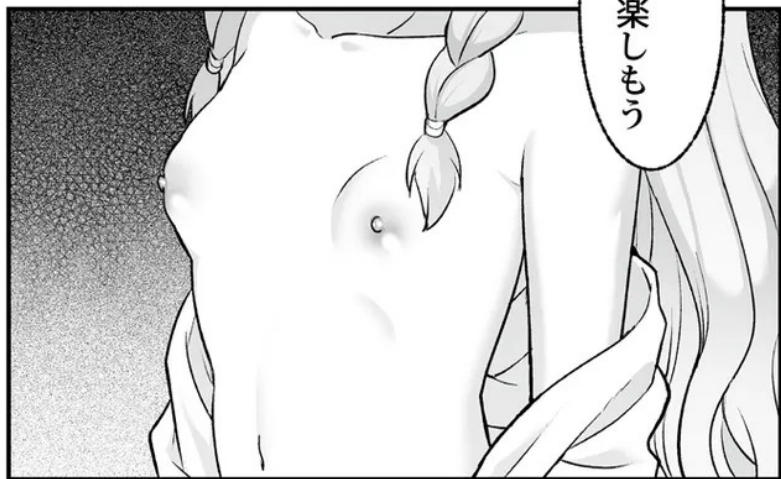
景山玄都

COMIC GEE

COMIC
GEE
SITE



さあ
今夜も楽しもう



どうも愛してる



私の可愛い人形

あんじゅ
杏樹

私の名前は
杏樹です

この施設には
身寄りのない
子供達が住んでいます

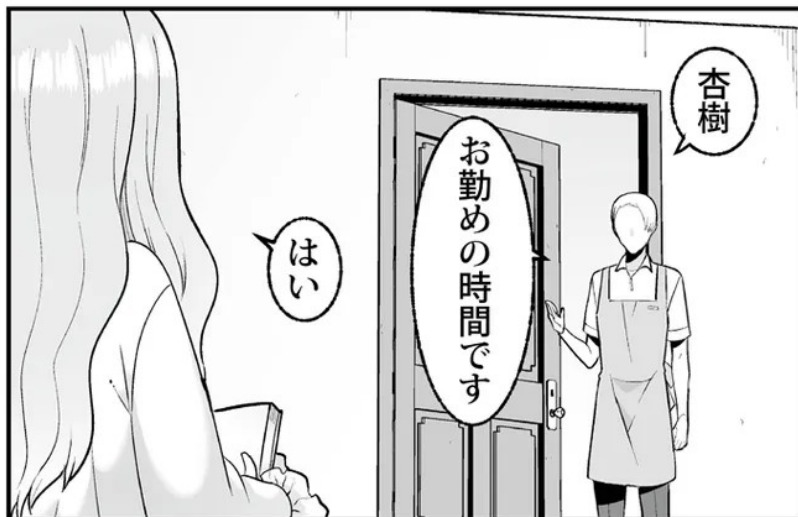
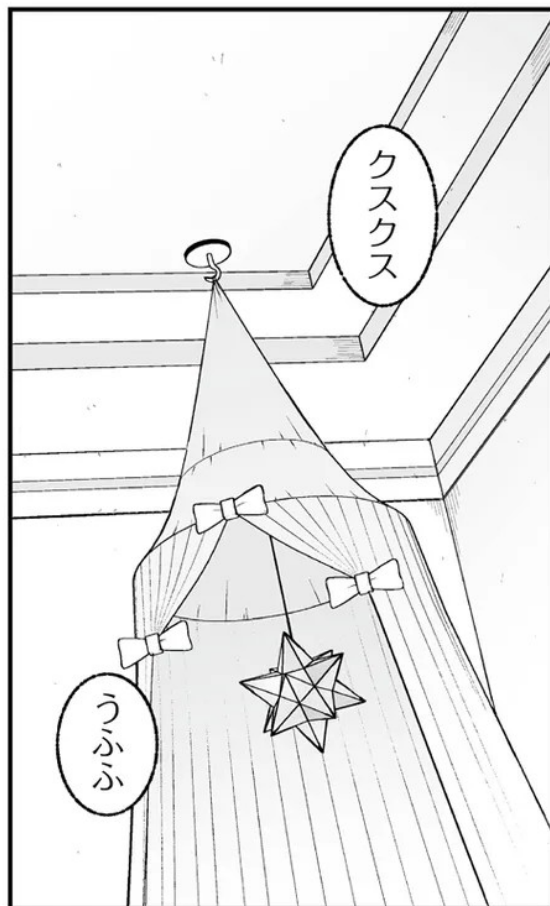
私には特別な
使命がありました

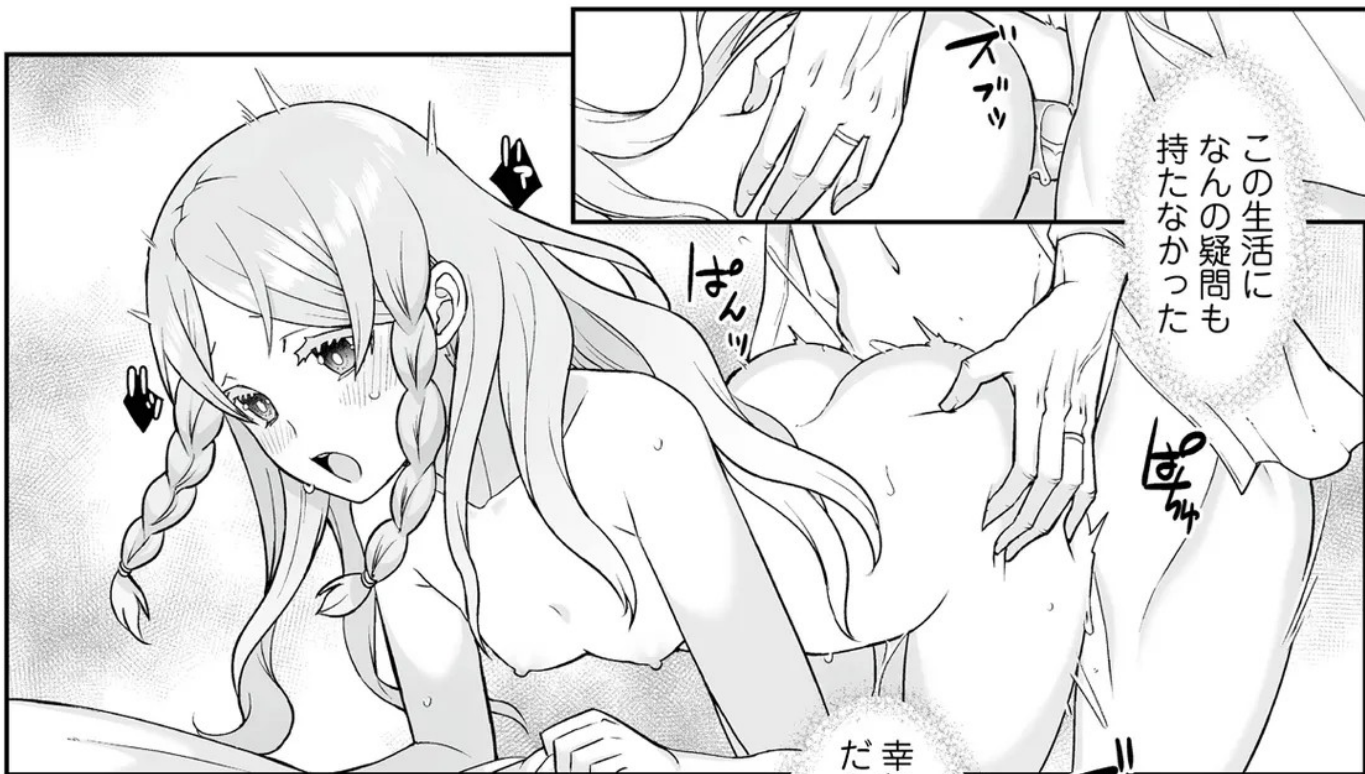
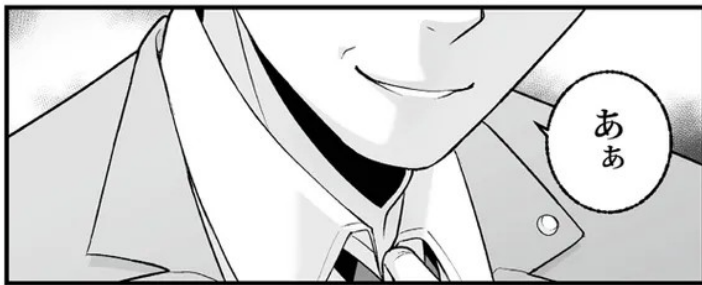
こどものにわ

お世話になってる先生や
支援してくださる方々に
ご奉仕するのです

そうすると
幸福が訪れると
皆で幸せになると

このような使命を
与えられた私は
素晴らしい子なのだ



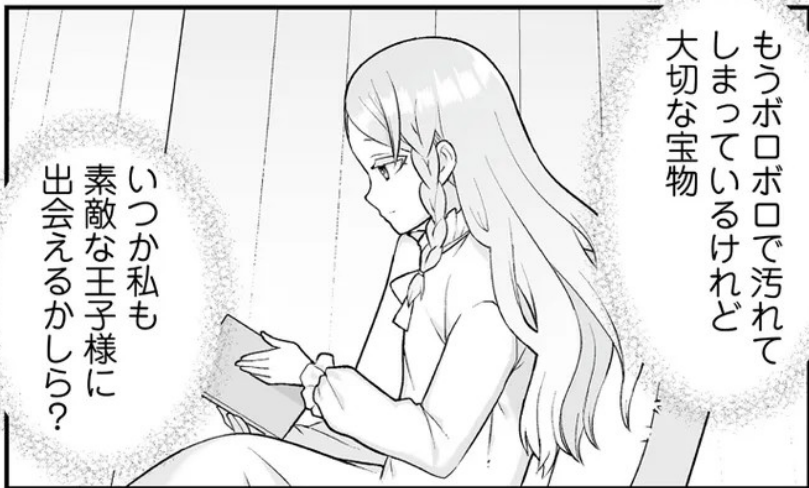


唯一の楽しみは
絵本



捕らわれのお姫さまと
素敵な王子さまとの
恋のお話

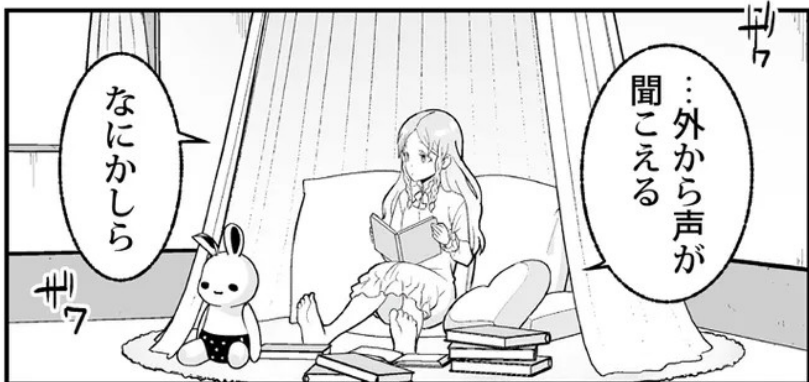
もうボロボロで汚れて
しまっているけれど
大切な宝物



いつか私も
素敵な王子様に
出会えるかしら？

外から声が
聞こえる

なにかしら



また
あの男の子だ

最近
何度も来て
いるらしい



綺麗な顔立ちで

絵本の中の
王子様に似ている



とても
ドキドキする

気になる



鈴城修道院長から
お聞きだとは思いますが

比良坂杏樹の
特殊な能力については
ご存じのほうです

このままでは危険です
我々で保護させて
いただきたい





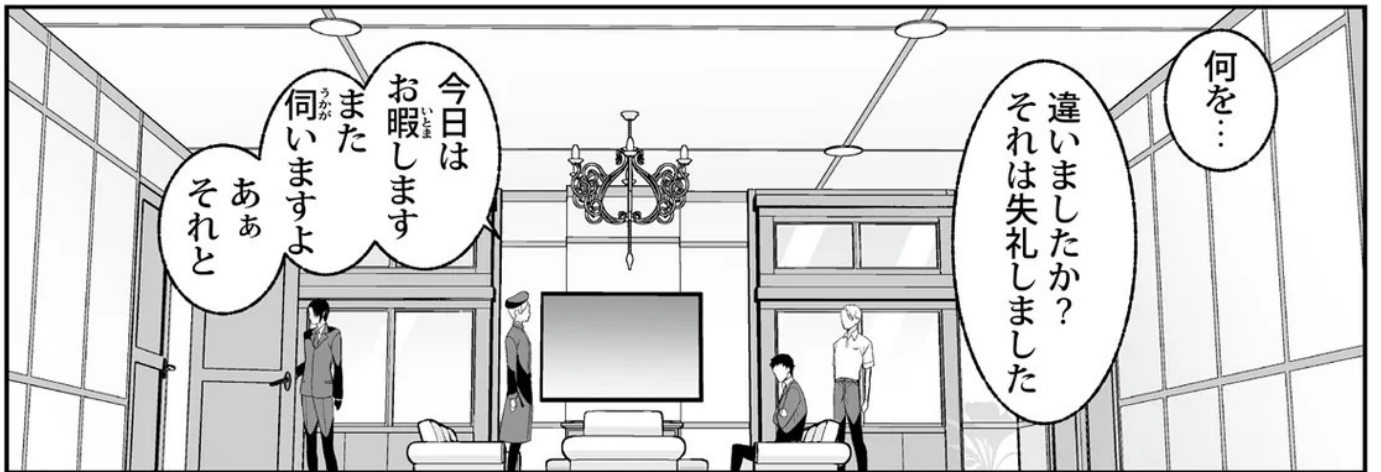
大事な金儲けの
道具だからですか

ええ

どうあっても？



お帰りください



今日は
お暇します
また
伺いますよ
ああ
それと

違いましたか？
それは失礼しました

何を…

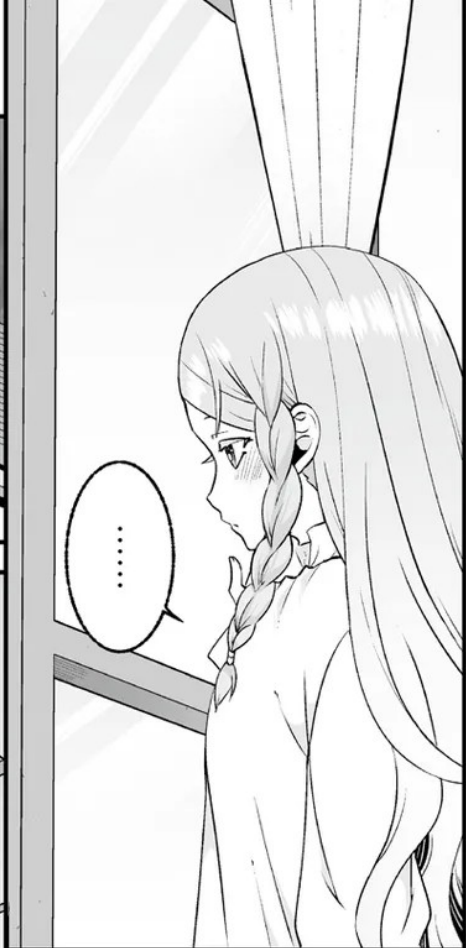


お忘れなく

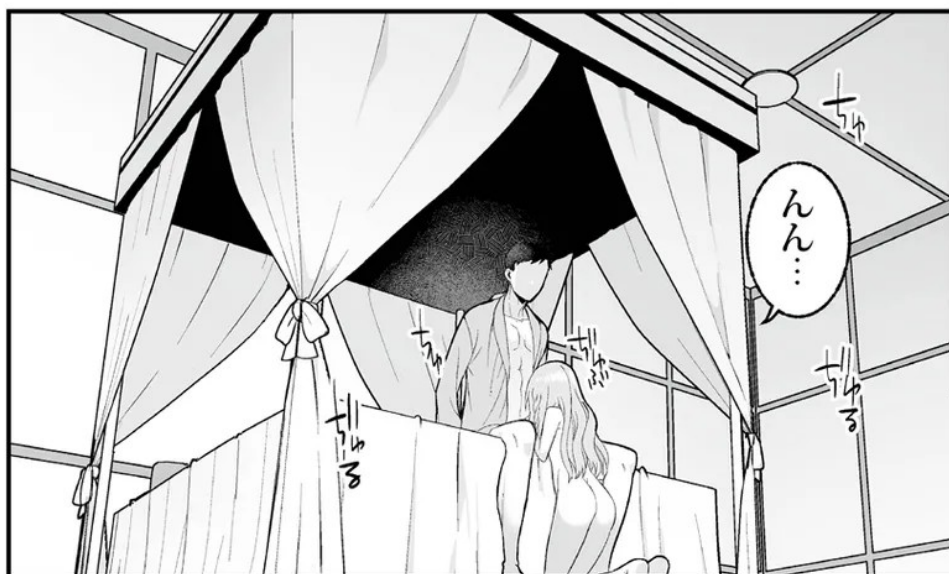
…同じ穴の貉
ということ



今日も良い子だな
杏樹



……



んん…



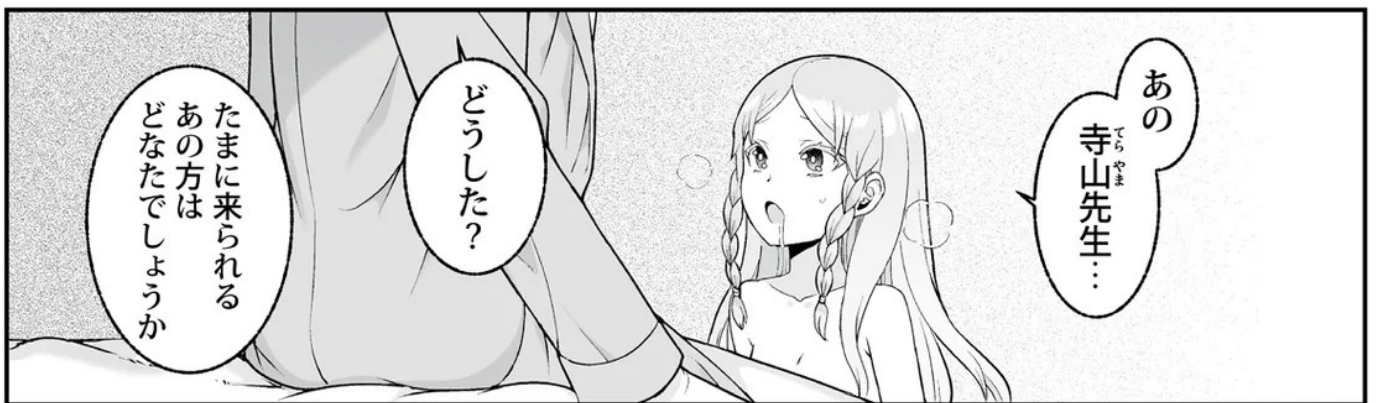
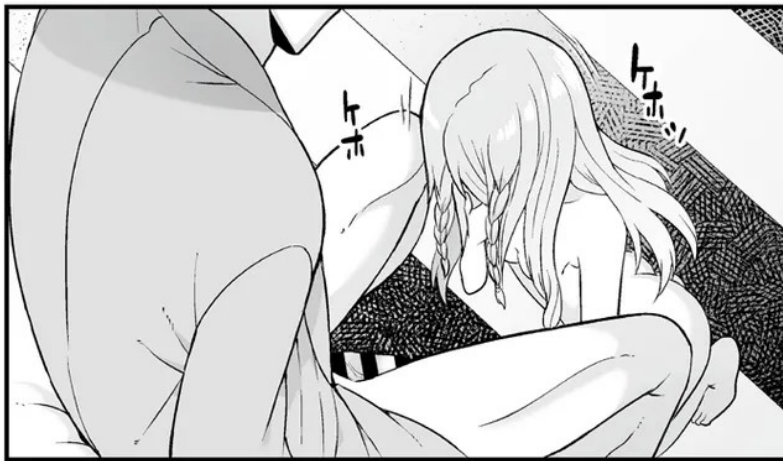
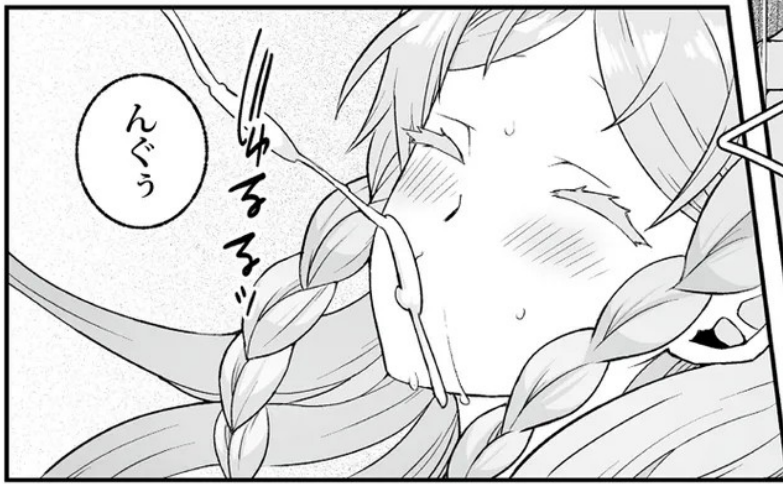
この勤めは
とても重要な事

誰にでも
出来るわけでは
ない



この庭の者達が
幸せになるために
必要な事だからな

お前の
為でもある



そのまま
腰を降ろせ

はい...

あっ

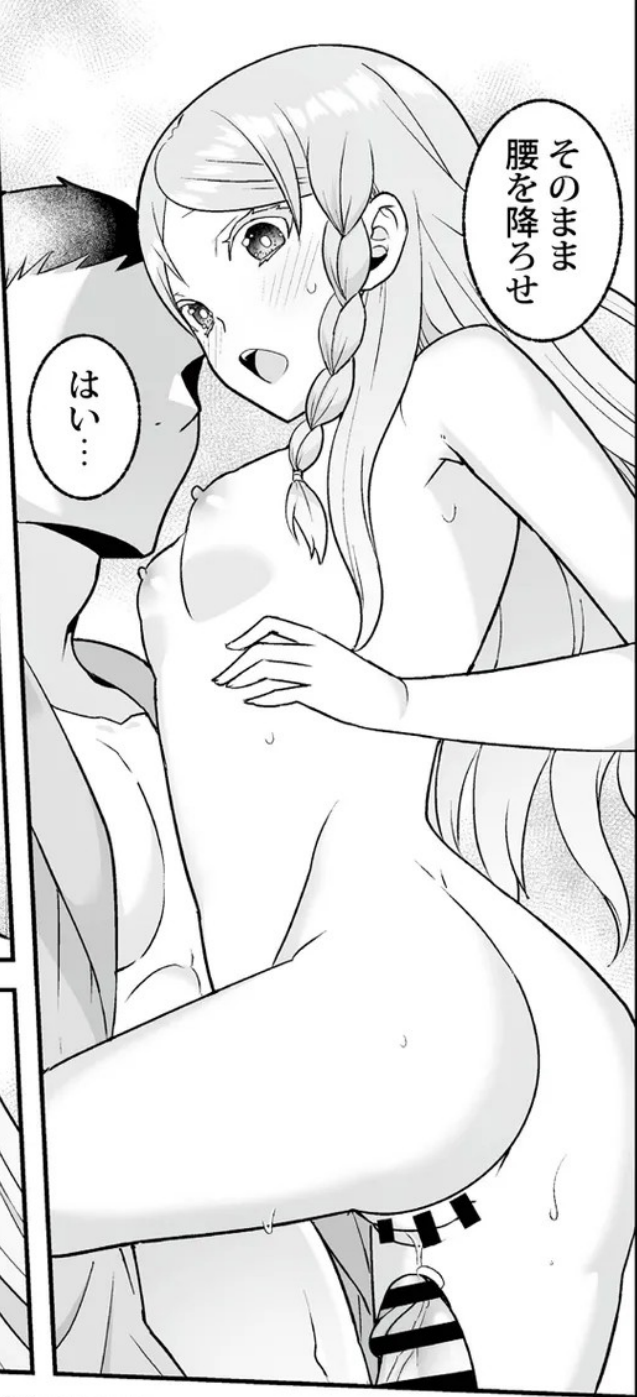
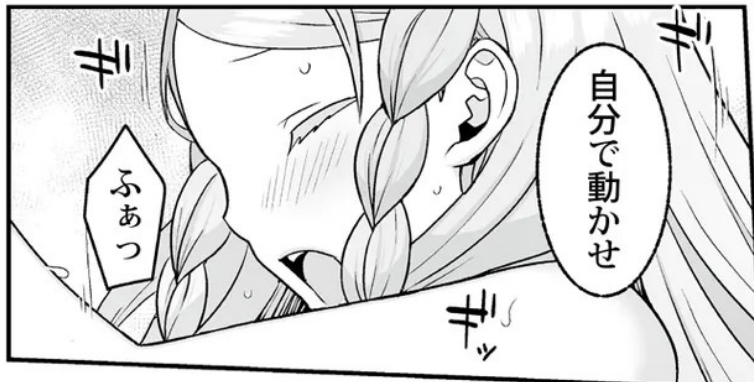
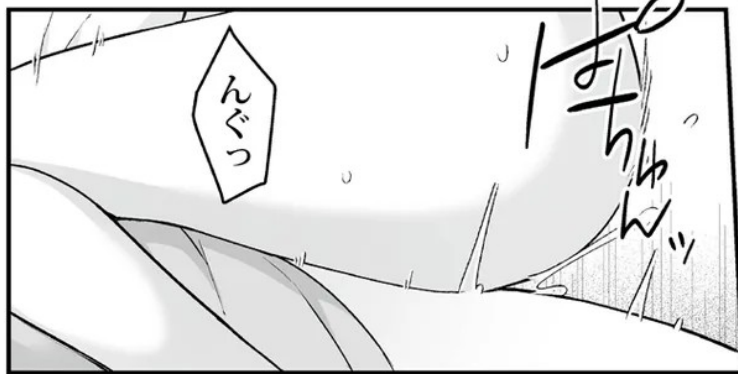
んぐっ

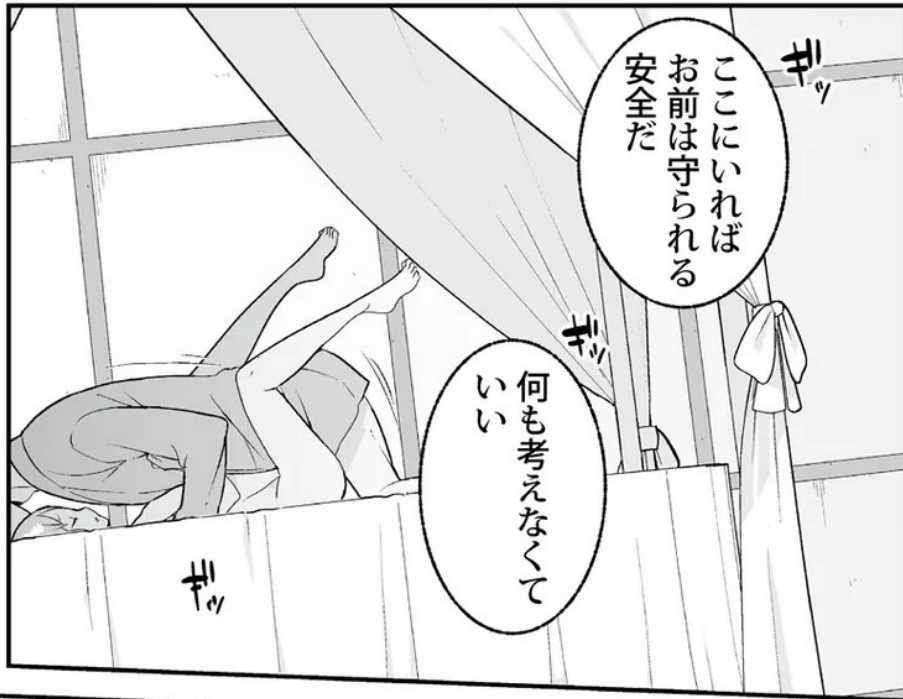
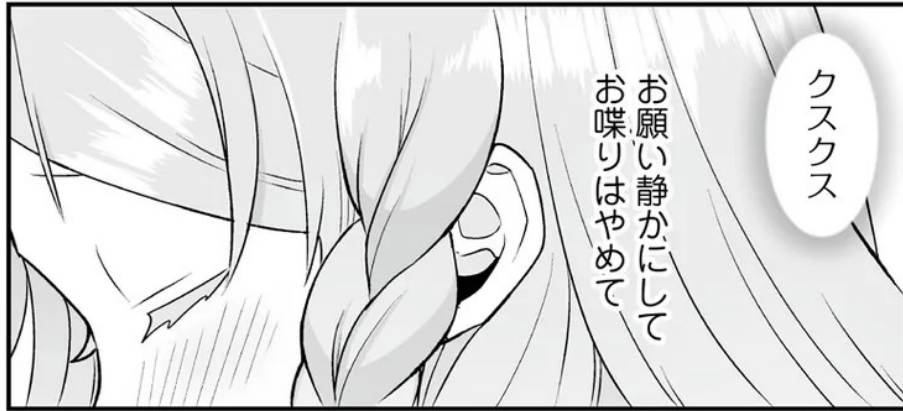
自分で動かせ

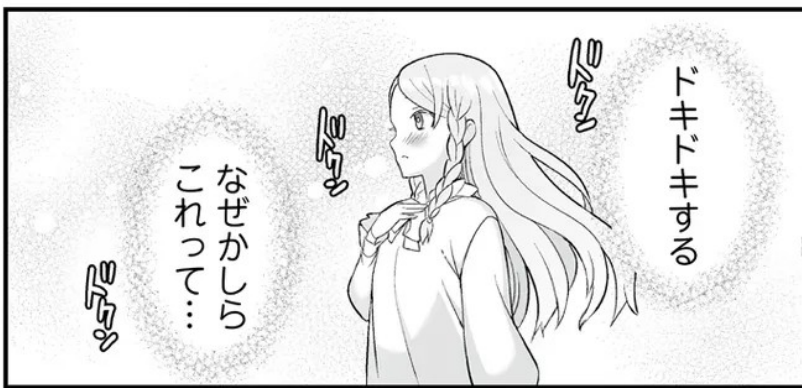
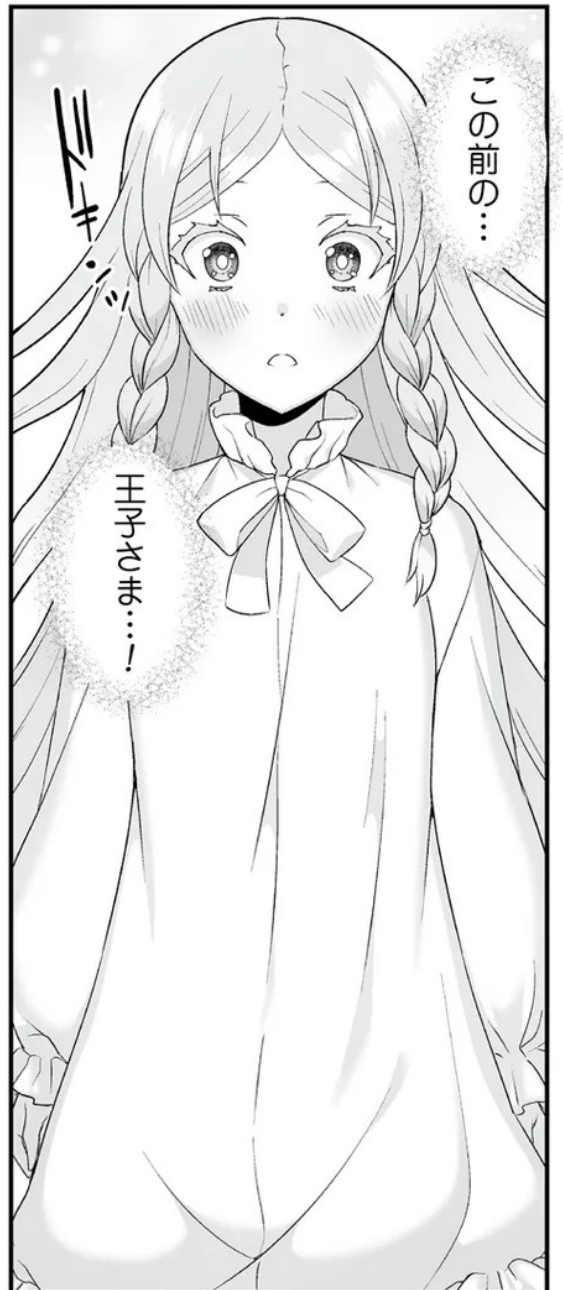
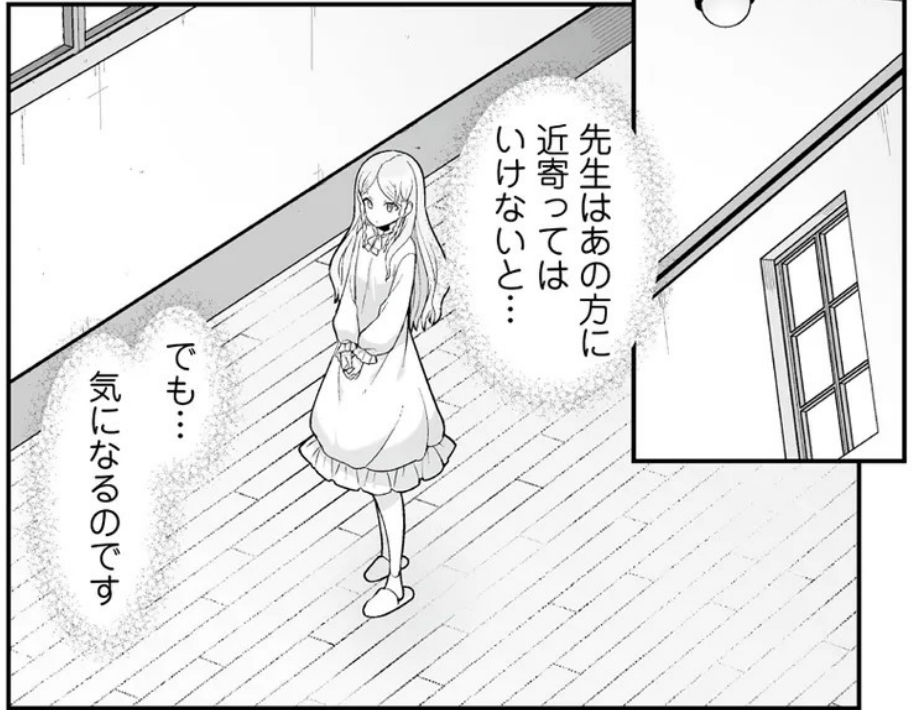
ふあっ

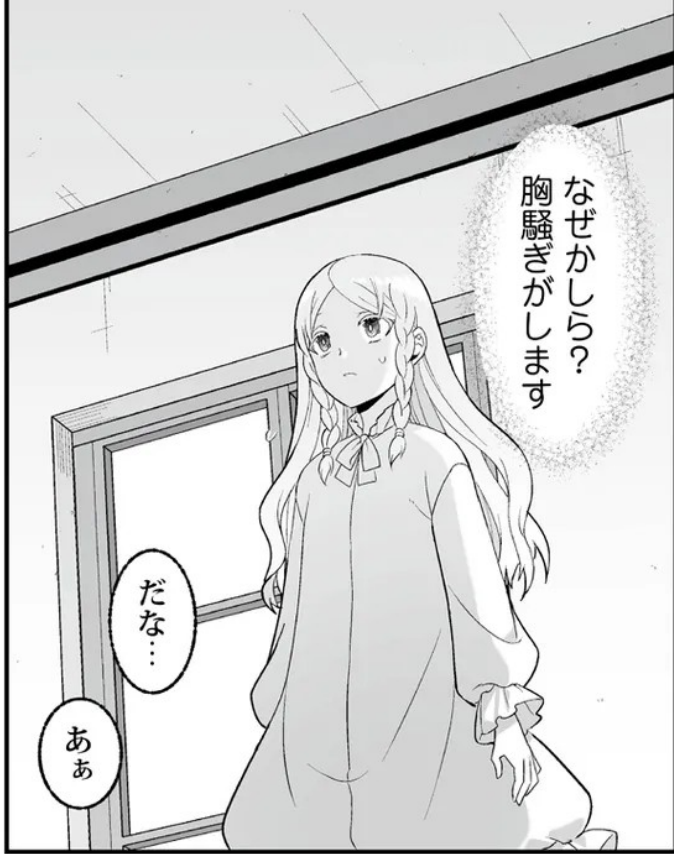
そうだ
上手だぞ杏樹

あ...
えへへ





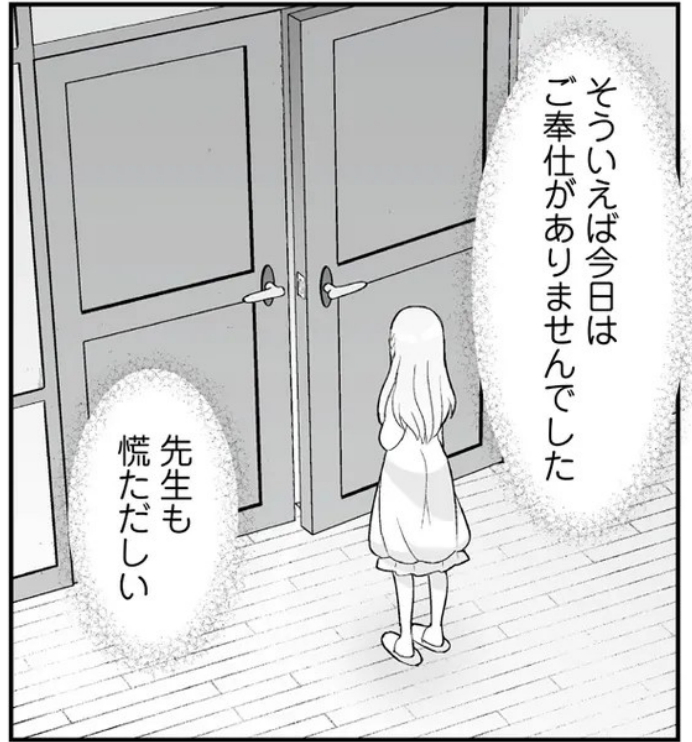




なぜかしら...
胸騒ぎがします

だな...

ああ



そういえば今日は
ご奉仕がありませんでした

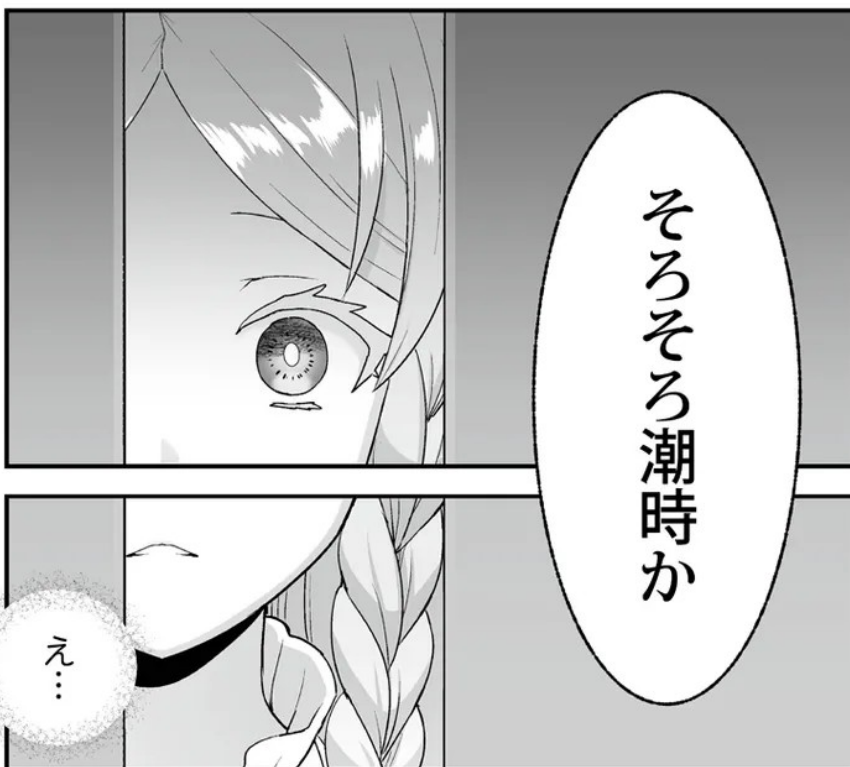
先生も
慌ただしい



びびり...
びびり...
びびり...

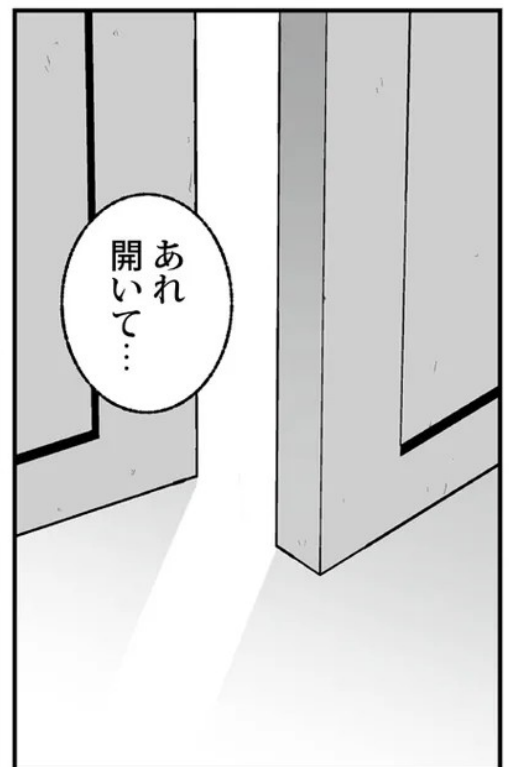
...うしろ

先生?
お話し中かしら

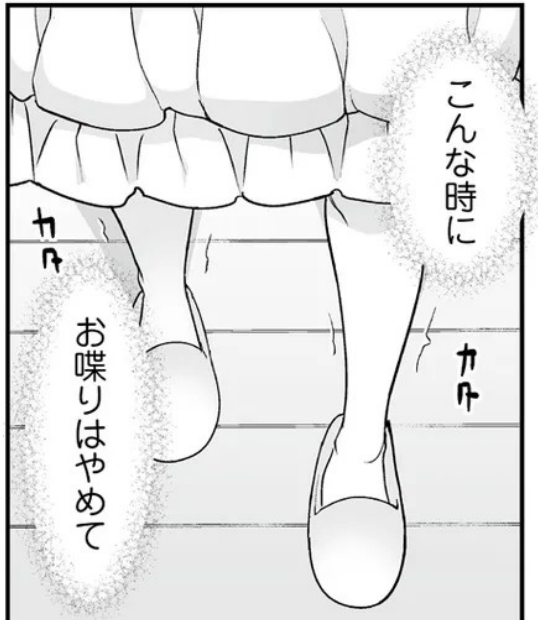
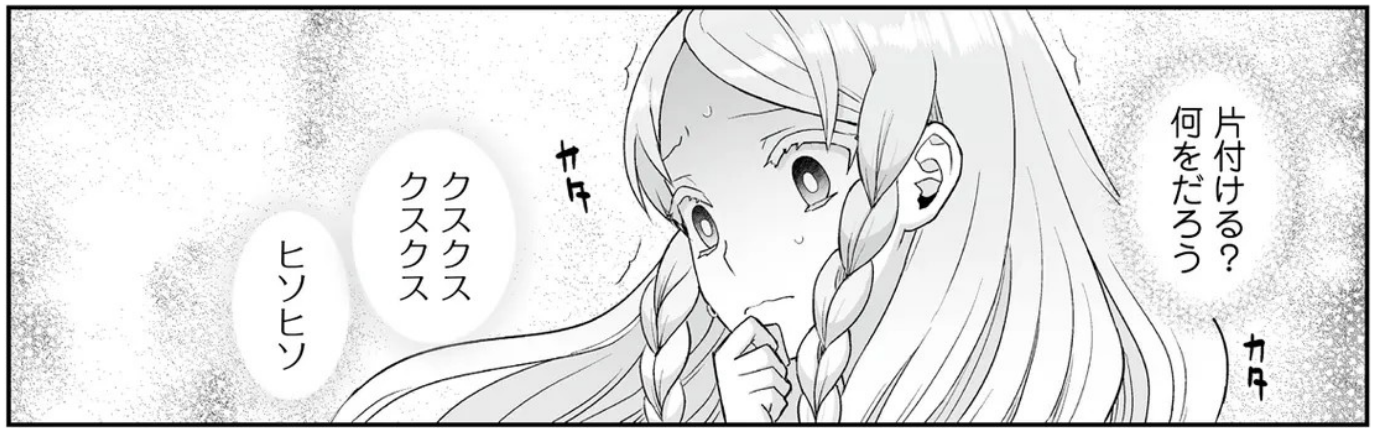
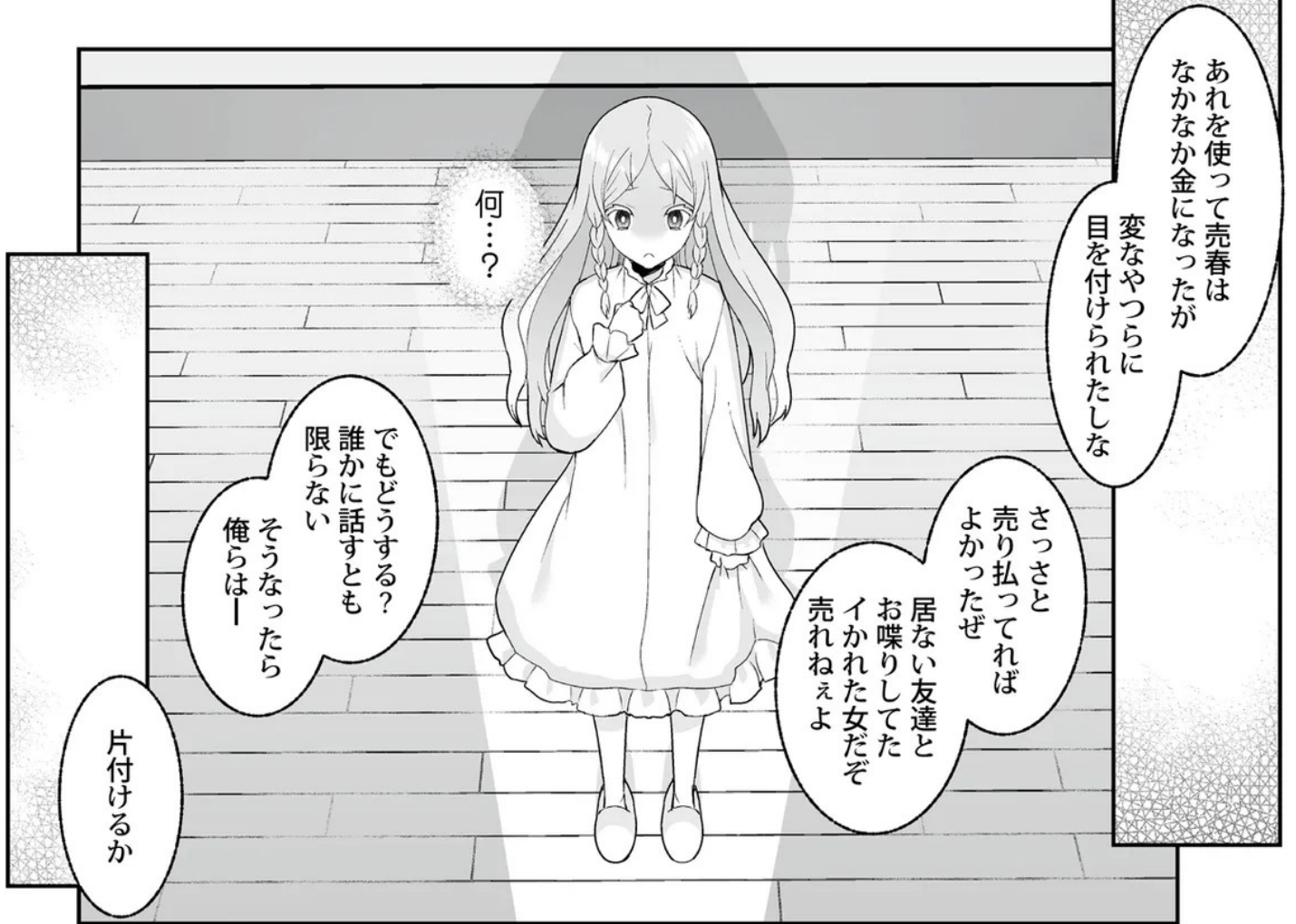


そろそろ潮時か

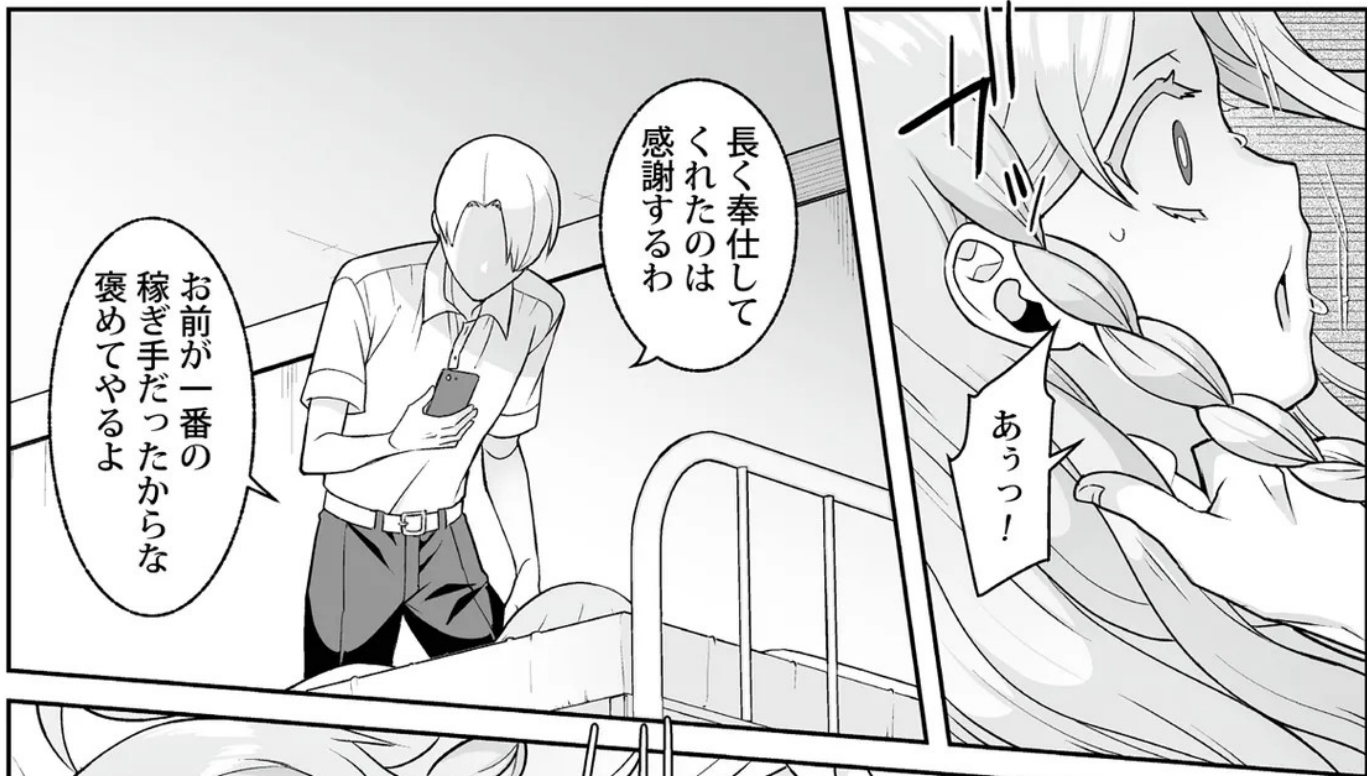
え...



あれ
開いて...







長く奉仕して
くれたのは
感謝するわ

お前が一番の
稼ぎ手だったからな
褒めてやるよ

あうっ！



成長しない体のせいで
捨てられたもんな
でも役に立ったじゃないか

きゃあっ



始末するのは
もったいないが
最後まで
その務めを果たせ



そんなお前の身体を
好んでくれる変態は
いっぱい居たからな



いつもより
ベッドが冷たい

ごめんなさいっ
ごめんなさい!

お部屋もこんなに
眩しかったかな

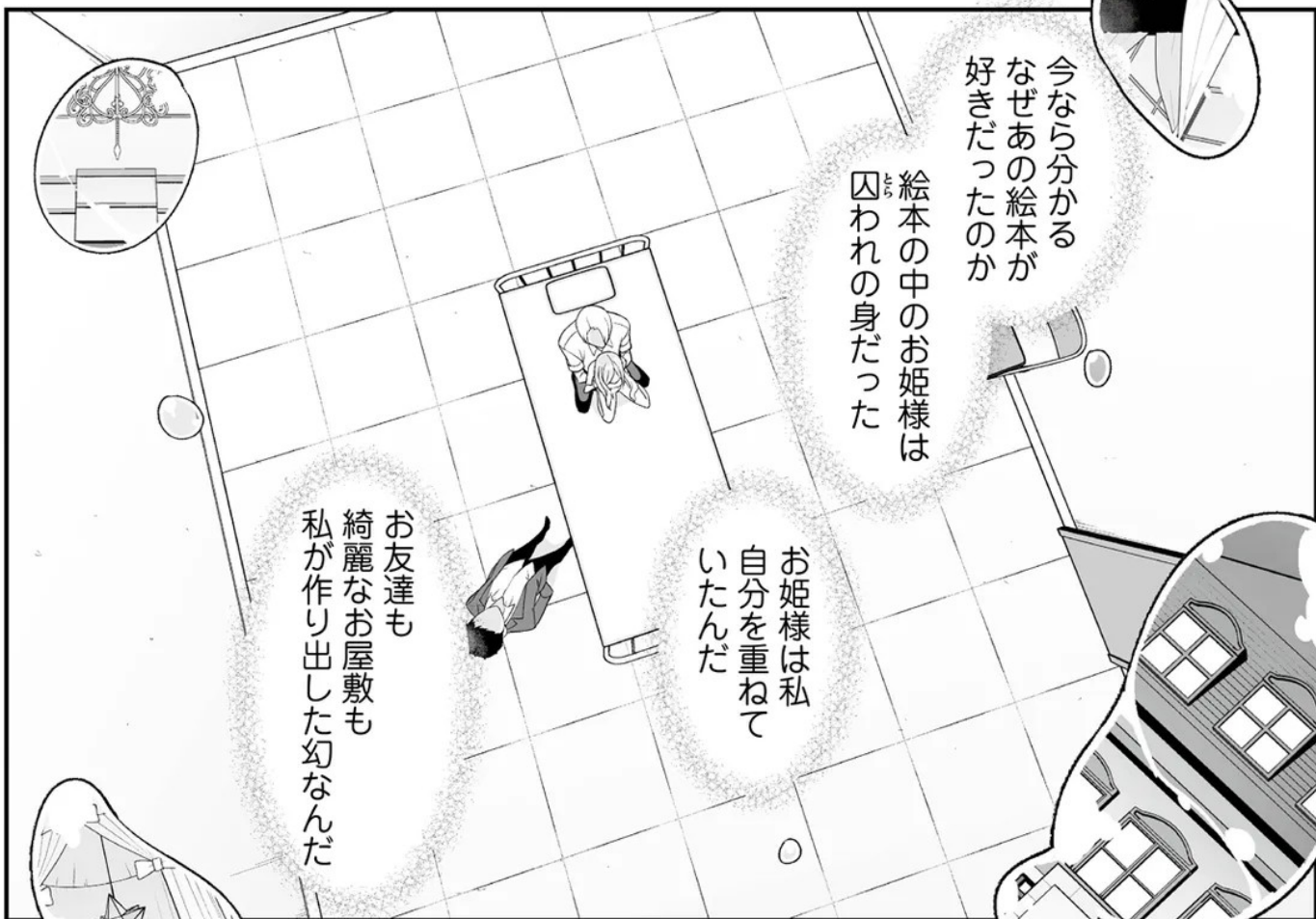


その後
友達に会わせて
やるからな



ああ…

そうか…

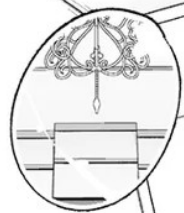
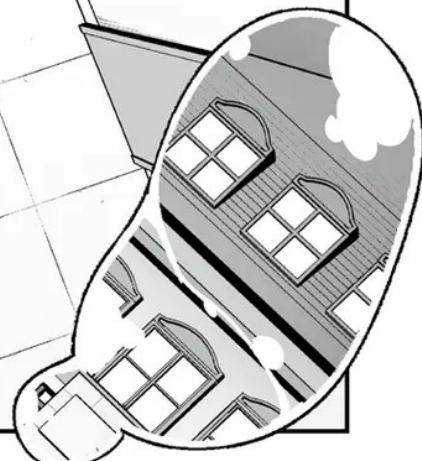


今なら分かる
なぜあの絵本が
好きだったのか

絵本の中のお姫様は
囚われの身だった

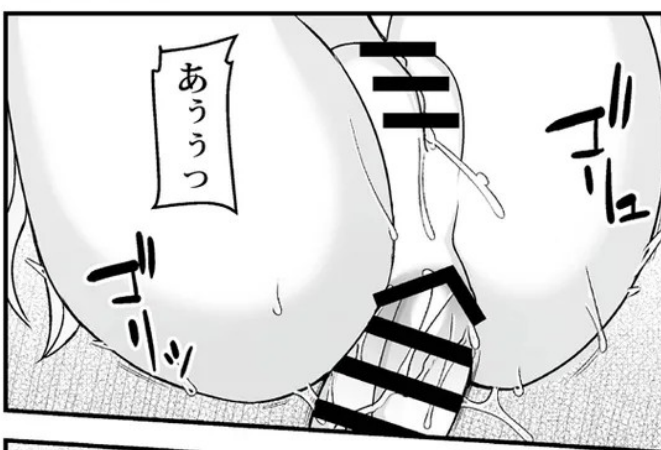
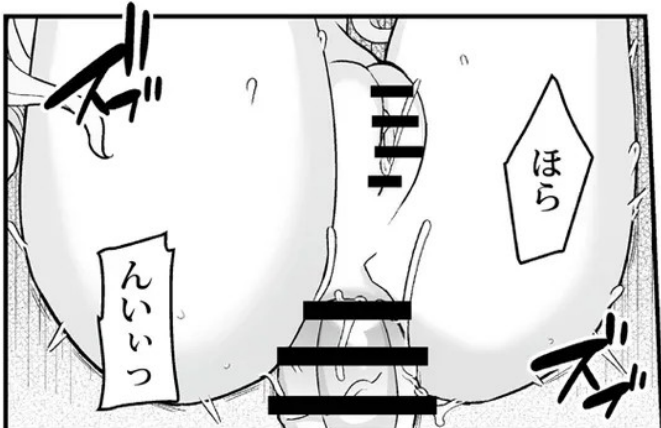
お姫様は私
自分を重ねて
いたんだ

お友達も
綺麗なお屋敷も
私を作り出した幻なんだ





杏樹
お前ケツも
好きだったな



んいっ...んいっ...んいっ

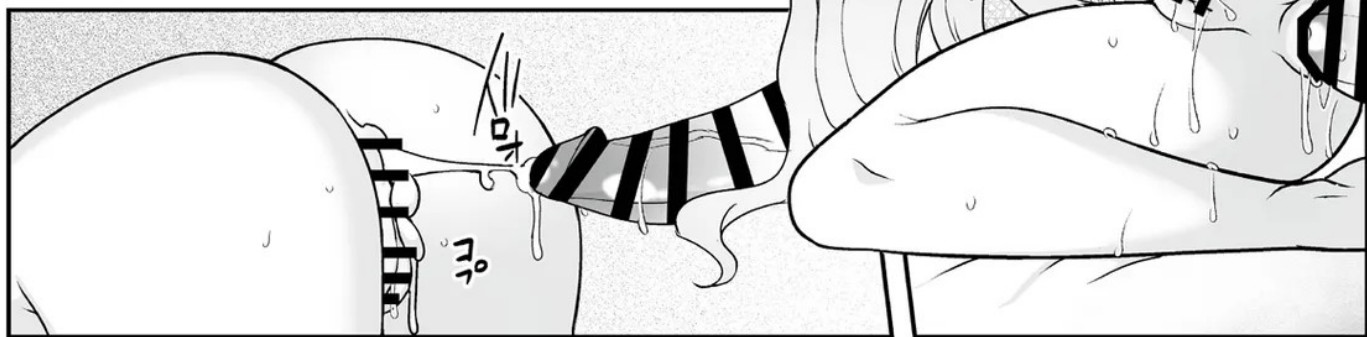
んいっ...んいっ...んいっ

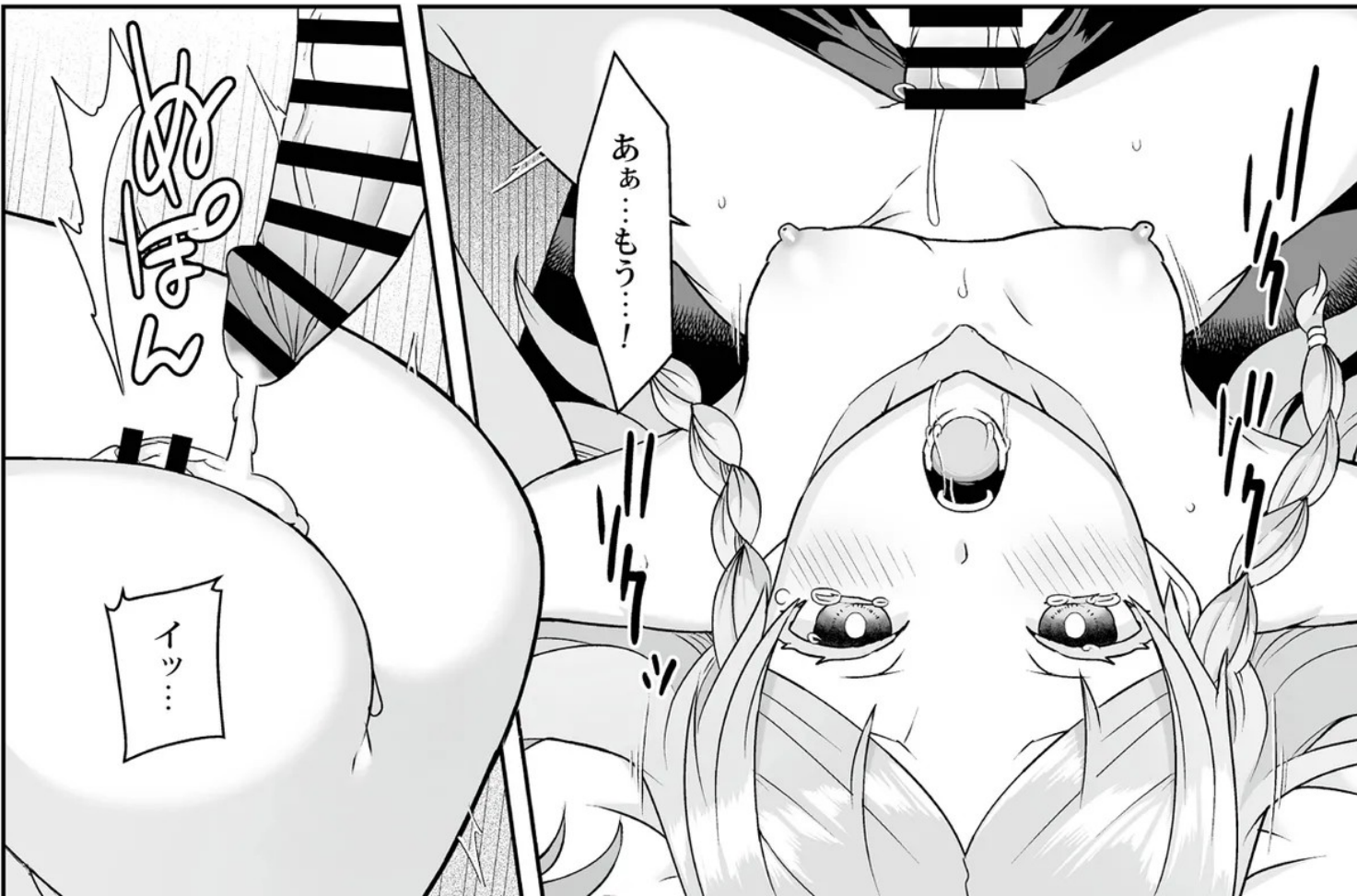


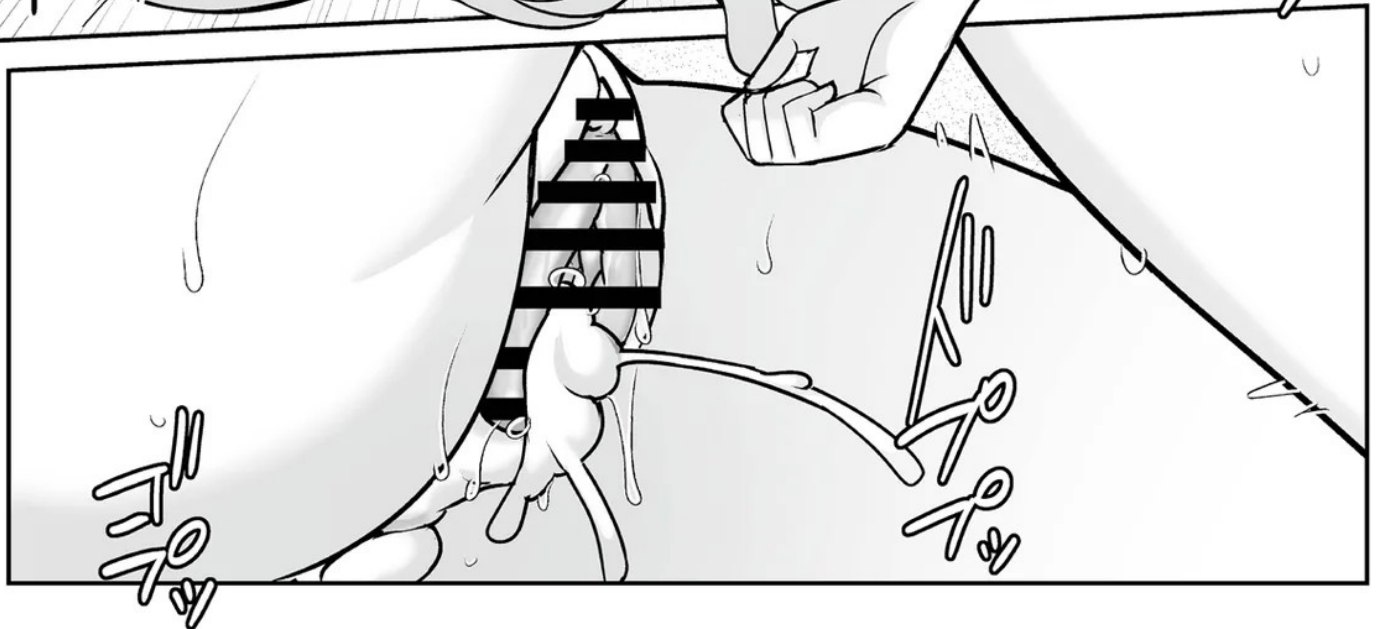
お腹の中っ

ゴリゴリ
しゅる...っ

んいっ





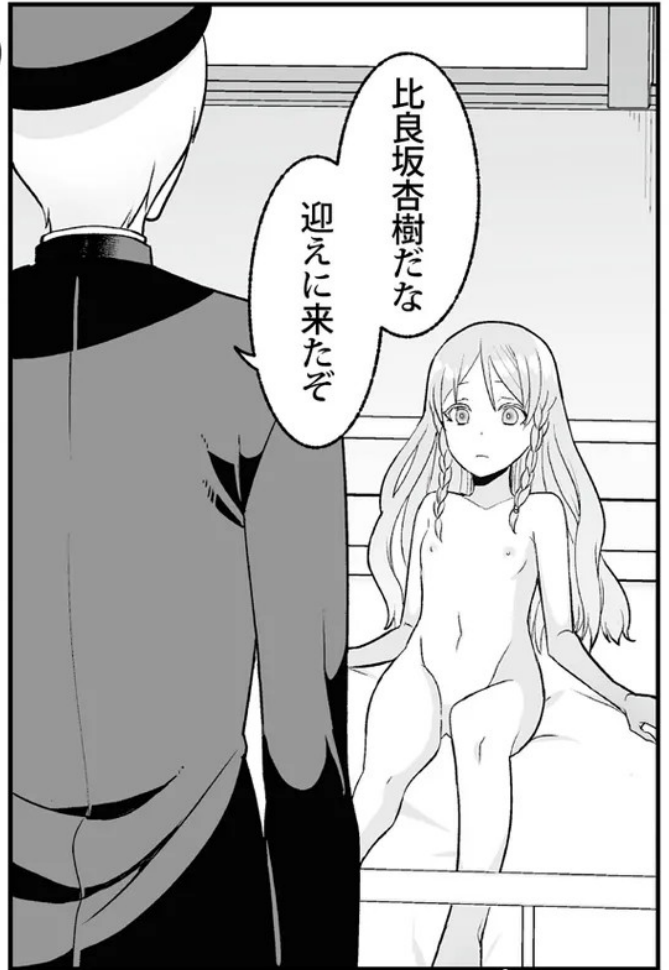






…王子様だ

アッ



比良坂杏樹だな
迎えに来たぞ

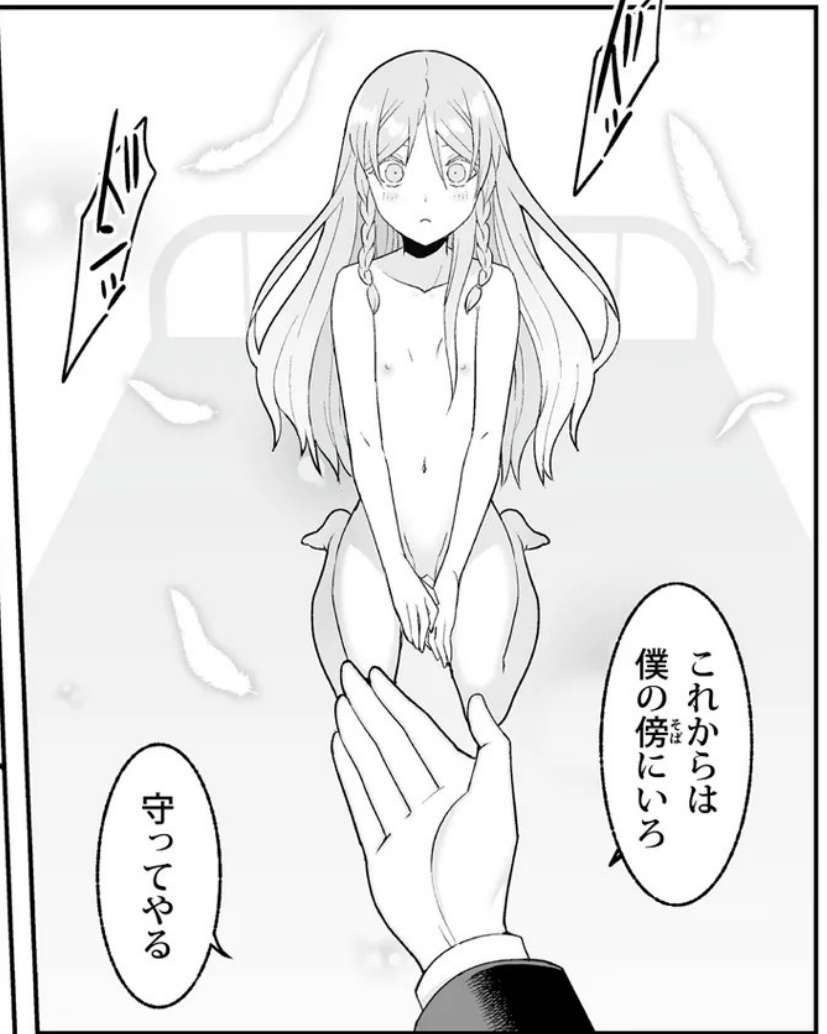


クソが…



やっと会えた

私の
王子さま



これからは
僕の傍そばにいる

守ってやる

じゅ…

杏樹

…おい

!

あ…
寝ちゃいました
ごめんなさい

別に
謝る事ない
だろ

?

疲れてるなら
休めば？

まあ

肩くらいは
貸してやるけど

えへへ
有難う
ございます

なに笑ってるんだ
変な奴だな

—つづく—

月庭の聖女淫蜜の宴 第六夜

著者:景山玄都

発行:COMIC GEE/ブレインハウス

※本作品はフィクションであり、実在の人物、団体、事件、名称、事象などとは一切関係ありません。※

※本作品の18歳未満の方の購入・閲覧を禁じます※

※日本の法律では、同意があっても13歳未満の者と性行為をすれば強姦罪に問われ、18歳未満の者と性交をすれば都道府県の淫行処罰規定に該当します。※

※無断複写、複製、転載、WEB上へのアップロードを禁じます。※

※無断掲載を発見した場合、法的措置を取る場合もあります。※

©ブレインハウス

